

令和元年7月

全国大学音楽教育学会会員 各位  
全国大学音楽教育学会関西地区学会会員 各位

全国大学音楽教育学会関西地区学会  
会長 山岸 徹  
(学会印省略)

## 全国大学音楽教育学会 関西地区学会

### 令和元年度 総会、及び 前期研究会開催のご案内

(最終案内)

初夏の候、会員の皆様にはますますご清祥のことと存じます。

平素は全国大学音楽教育学会関西地区学会の運営にお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

予てよりお伝えしておりました「全国大学音楽教育学会 関西地区学会 令和元年度総会、及び前期研究会」の詳細が下記の通り決まりましたのでご案内を申し上げます。**(開会時刻が変更となりましたのでご注意ください。)**

研究会では会員による4件の研究演奏発表がございます。~~(研究目録発表のお申し込みはありませんでした。)~~  
また、**虫明眞砂子先生(岡山大学教授)**をお迎えし、講演をしていただきます。研究会終了後には情報交換会も予定しております。

皆様におかれましてはご多忙のことと存じますが、ご参加下さいますようお願いいたします。

#### 記

1. 名 称 全国大学音楽教育学会 関西地区学会 令和元年度 総会及び前期研究会
2. 日 時 令和元年8月4日(日) **13:00開会(12:30から受付、16:30分ごろ終了予定)**  
**\*「第一次案内」でお知らせした時刻ではなく、上記のように変更させていただきます。**
3. 会 場 三木楽器 開成館 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町3-3-4 TEL 06-6252-0432  
\*大阪メトロ(地下鉄)御堂筋線「本町駅」より徒歩3分、同「堺筋本町駅」より徒歩8分、  
同「心斎橋駅」より徒歩9分
4. 内 容 総会(13:00)、会員による研究演奏発表(13:50ごろ)、  
講演 講師:虫明 眞砂子 氏 演題:「歌声の溢れる音楽科の授業」(14:40ごろ)
5. 情報交換会 会場:「梅の花」本町店 (17:00~19:00)  
〒541-0059 大阪市中央区博労町3-5-1 御堂筋グラントワー 21F  
\*研究会会場より徒歩約3分 TEL 06-6258-6533
6. 参加費用 研究会参加費:会員1,000円(一般2,000円、学生500円)、情報交換会参加費:6,000円  
\*お支払いは、当日受付にてお願い致します。できるだけ釣り銭のないようにご用意下さい。  
**\*会員の皆様は、令和元年度の年会費7,000円も同時にお納め下さい。**

\*前期研究会にご欠席の会員方は、今年度年会費(7,000円)を下記へお振り込み下さい。

**郵便振替口座:総合口座 記号:14220 番号:1167961**

**加入者名:全国大学音楽教育学会・関西地区学会**

**※他の金融機関から振り込んで頂く場合:ゆうちょ銀行**

**支店名:四二八 店番:428 預金種目:普通預金 口座番号:0116796**

7. 申し込み方法

**申し込み締め切り** 7月24日(水)【必着】

\*同封の返信用ハガキ(会長宛)で研究会、情報交換会の出欠をお知らせ下さい。  
欠席の場合も必ず返送して下さい。

\*情報交換会をキャンセルされる場合は、必ず前々日(8月2日)までに事務局にご連絡下さい。当日になってキャンセルされる場合は会費をいただきます。

\*一般の方のお申し込み、お問い合わせはEメールにて下記までお願いいたします。  
関西地区学会事務局長：永井正幸

E-mail m-nagai@osaka-aoyama.ac.jp

以上

《研究演奏発表》

1. ピアノ独奏 久野 以早夫(東京福祉大学名古屋キャンパス)  
ショパン作曲：前奏曲集 作品28より 第15番「雨だれの曲」
2. ピアノ独奏 小谷 朋子(常磐会短期大学)  
ドビュッシー作曲：前奏曲集 第2巻より  
第4曲「妖精はすてきな踊り子」、第5曲「ヒースの茂る荒地」
3. 独 唱 ソプラノ：伊藤 菜穂美(武庫川女子大学)、ピアノ：丸井 理恵(常磐会学園大学)  
リチャード・ロジャース 作曲(オスカー・ハマースタイン2世 作詩)  
「サウンド・オブ・ミュージック」より  
「サウンド・オブ・ミュージック」、「エーデルワイス」、「すべての山に登れ」
4. ピアノ連弾 プリモ：山本 敬子(佛教大学)、セコンド：生地 加代(武庫川女子大学)  
モーツァルト作曲：4手のためのピアノソナタ ハ長調 K.521 より 第1楽章

《虫明 眞砂子 先生のご講演について》

虫明 眞砂子先生からはご講演の要旨としまして次のような文章をいただいております。

\*\*\*\*\*

演題【歌声の溢れる音楽科の授業】

歌唱活動は、本来、身体を楽器とするため身体や心が解放され、表現活動・創作活動を通して感性を豊かにすることができるものである。また、合唱活動においては、一人では決して感じることでできない響きの厚みやハーモニーを体感することができ、さらに、仲間と一つの音楽を創り上げる中で一体感を味わうことができるとともに、喜びや悲しみを共有し、感動を分かち合いながら絆を深めていくこともできる。

しかし、現実の学校現場では、歌うことに苦手意識を持つ子どもや、歌うことに対して消極的な態度の子どもが多く見られる。児童生徒の多くが、小学校の低学年まではよく歌うが、学年が上がるにつれて歌わなくなるのはなぜだろうか。この原因は様々に考えられるが、歌わなくなる原因を教える教員がしっかり把握し、丁寧に対応していく必要がある。当然のことながら、自ら声を出せないと歌唱の授業は楽しめないのも、そのための環境作り、雰囲気作りも重要と考える。

今回、私が訪問したハンガリーや米国等の児童の歌声をいくつか紹介したい。両国の歌唱の授業は、各々の児童生徒は、自然に歌を楽しめる授業であった。これらを参考にしながら、歌声の溢れる音楽科の授業について、参加された皆さまとともに考えていければと思う。

\*\*\*\*\*